

付録 2

工事竣工図作成基準

工事竣工図作成基準

平成22年	4月	1日	改定
平成23年	4月	1日	改定
平成23年	6月	15日	改定
平成24年	4月	1日	改定
平成25年	10月	1日	改定
平成26年	12月	18日	改定
平成27年	6月	1日	改定
平成28年	4月	1日	改定
平成29年	4月	1日	改定
平成29年	5月	24日	改定
平成30年	4月	1日	改定
令和2年	4月	1日	改定
令和3年	11月	30日	改定
令和5年	4月	1日	改定

工事竣工図作成基準

1 適用

- (1) この基準は、配水管、導水管、送水管の布設、消火栓設置及び移設工事の竣工図を作成する為の基準である。
- (2) 作図、記号、線の一般的用法その他について、この基準に定めのないものは、JIS Z 8310（製図総則）、JIS A 0101（土木製図通則）、土木学会制定「土木製図基準」に準拠するものとする。

2 作図一般

- (1) 作図は、出来る限り簡素化した製図技法を用い、明瞭かつ十分識別できる事を原則とする。
- (2) 構成図は、図面名、縮尺を記載する。
- (3) 方位は、北を図面の上方にすることを原則とし記載する。ただし、構成上不可能な場合はこの限りではない。
- (4) 図面は、「補足 1 配管材記号等」で示す配管材記号で記入する。
- (5) 寸法の単位は、メートルを原則とする。
 - ① 単位は、JIS Z 8203（国際単位系（SI）及びその使い方）の規定に準拠する。
 - ② 小数点以下第 3 位を四捨五入して、第 2 位まで記載する。
なお、異形管個々の単位は、ミリメートルを四捨五入とする。※ 図面への寸法単位記入は、以降の各記載例を参考にする。
- (6) 寸法は、特に明示してある場合の他は完成寸法を示すものとする。

3 図面の大きさ及び紙質

- (1) 原図の大きさは、A1 版を原則とする。
- (2) 原図の紙質は、トレーシングペーパーを原則とする。

4 図面の構成

- (1) 図面の表題欄は共通様式とし、各図面は「案内図、工事概要、道路復旧標準図」、「平面図、配管図、詳細図、断面図、（縦断図）」、「オフセット図」、「給水図、給水管取替一覧表」、「撤去・埋置き廃止管図、撤去・埋置き廃止管数量表、断面図」で構成する。
また、構成図の配置は、「補則 2 竣工図の配置箇所」を参照して作成する。
ただし、構成上不可能な場合はこの限りではない。
- (2) 平面図、縦断図、配管図、配管詳細図等規定の大きさと作図できない場合は、A1 版に分割して作成し、「図-1 図面が 2 枚にまたがる場合の記入例」のように、その接続表示を明確にすること。

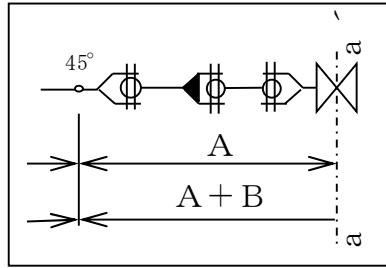


図-1

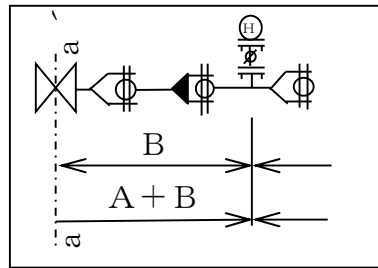


図-2

図-1 図面が2枚にまたがる場合の記入例

5 表題欄

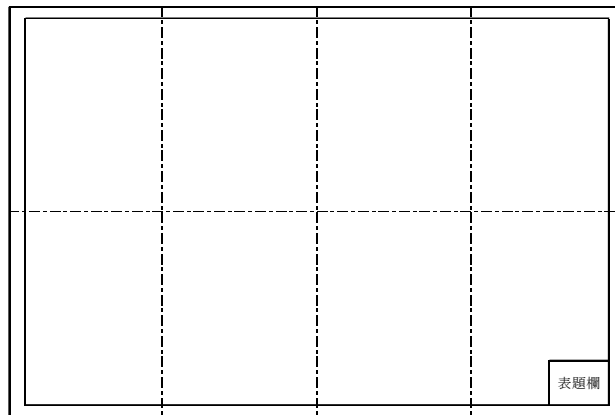


図-2 表題欄配置箇所

(1) 表題欄は、「図-2 表題欄配置箇所」のように図面の右最下段に配置し、「図-3 表題欄図」の様式で該当事項を記入する。

なお、表中の竣工年月日は、検査合格日を記入すること。

竣 工 図			
工 事 名			
工事場所			
図 面 名		図 番	
縮 尺		竣工年月日 (検査年月日)	令和 年 月 日
受注者名			
さいたま市水道局 部 課・所			

Dimensions: Total width 119, total height 87. Individual cell widths: 20, 31, 34, 34. Individual cell heights: 12, 12, 12, 12, 12, 12, 15.

図-3 表題欄図

6 案内図

- (1) マッピング図を使用し、縮尺を 1/2500 とする。
- (2) 施工配管路を太線で記し円または楕円で囲み、「工事場所」と記載する。
- (3) 工事始点及び終点の住所を記載する。
- (4) 目標になる場所・建物・公共施設・主要道路名等を記載する。
- (5) 工事路線が複数ある場合は、囲いごとに平面図が記載されている竣工図面番号を明記する。
- (6) 案内図の記載例は、「図-4 案内図例」のとおり。

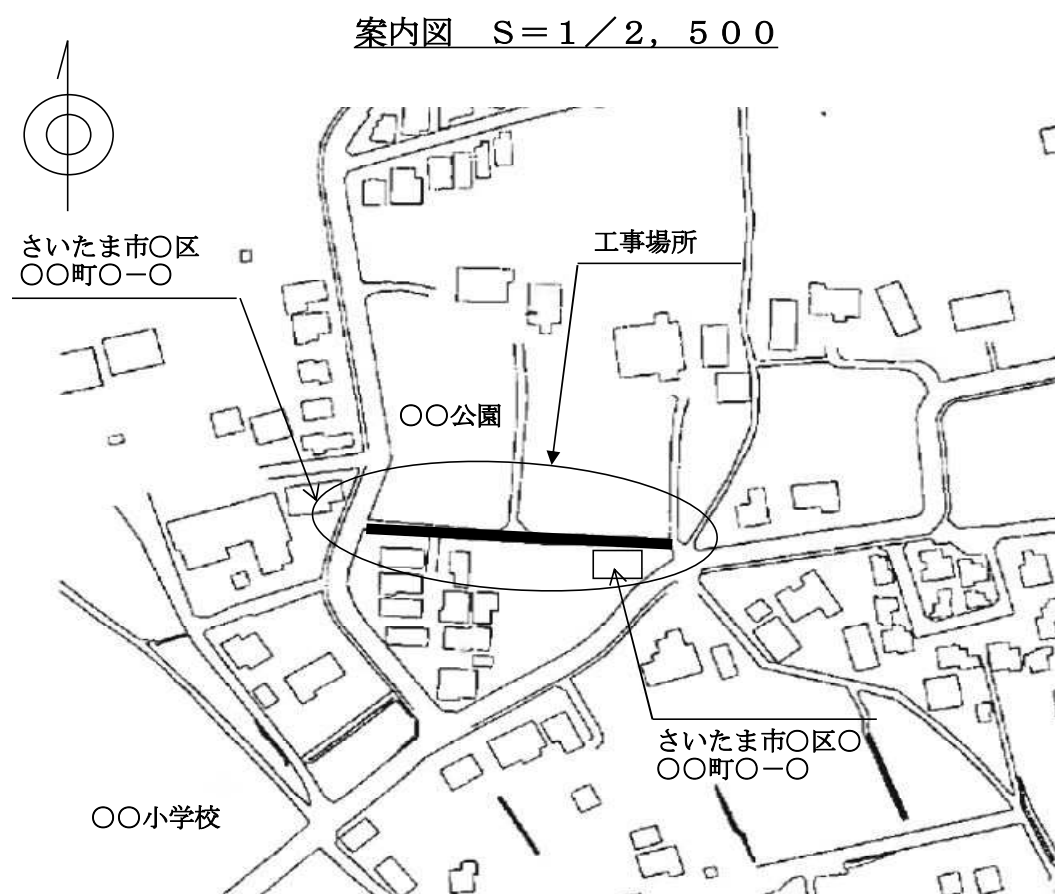


図-4 案内図例

7 工事概要

- (1) 工事概要は、「表-1 工事概要様式の基本表」の「布設工事数量表」「マッピングメッシュ番号表」が基本となり各表の例を基に当該事項を記載する。
- (2) 布設工事数量表は案内図の下に配置し、マッピングメッシュ番号表は表題欄の左側に配置する。
- (3) 布設工事数量表の種別等項目欄は、数量記入がない場合は削除できる。
- (4) その他概要の記載箇所は表題欄の上側に記載する。
- (5) 可とう管を設置した場合は、可とう管規格表を「表-2 可とう管規格表記入例」のように該当事項を記入し、布設工事数量表の下段に配置する。

表-1 工事概要様式の基本表
(布設工事数量表例)

布設工事数量表

種別	口径	管種	布設延長(m)	直管(m)	異形管(m)	仕切弁(台)	排水弁(台)	排水栓(基)	消火栓(新設)(基)	消火栓(移設)(基)	空気弁(基)	可撓管(基)	不断水式仕切弁(台)	簡易不断水式仕切弁(台)	耐震形特殊T字管(個)
布設工事	φ○○○	DIP (GX-1E)													
	φ○○○	DIP (GX-1E)													
取出工事	φ○○	DIP (GX-1E)													
	φ○○	DIP (GX-1E)													
計															

(マッピングメッシュ番号表例)



(その他概要記載例)

1. 全線埋設表示シート敷設
2. 全線ポリエチレンスリーブ被覆施工
3. 腐食抑制金具取付 (K形)

竣 工 図	
工事名	
工事場所	

表-2 可とう管規格表記入例

可とう管規格表

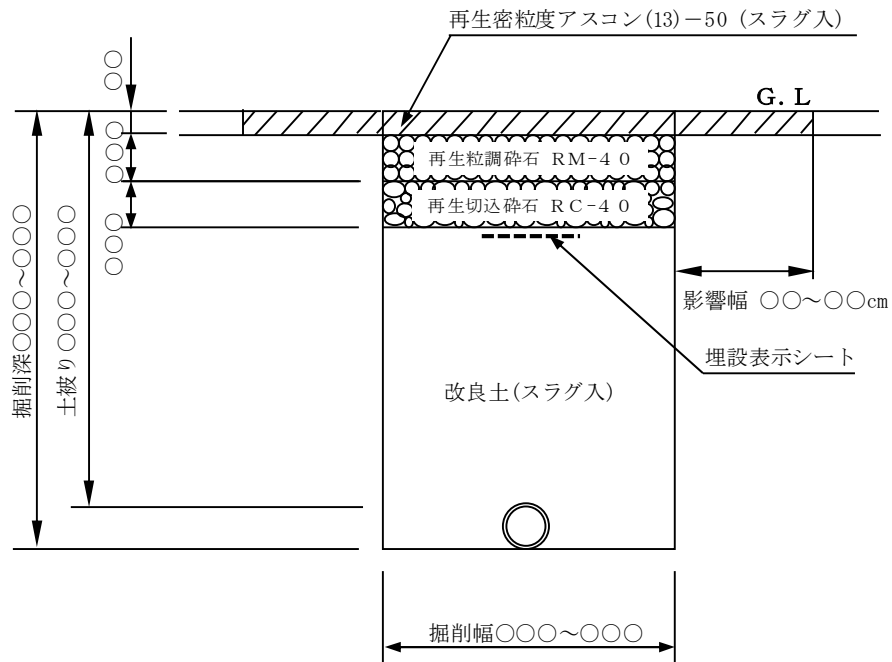
可とう管種類	G X型ダクタイトル 鋳鉄製ボール型伸縮可とう管
口径 (mm)	φ 200
偏心量 (mm)	200
形 式	ダブル型 G X形受口 + G X形挿し口
メーカー名	○○○○株式会社

8 道路復旧標準図

- (1) 縮尺はフリーとする。
- (2) 道路復旧標準図の記載例は「図-5 道路復旧標準図記載例」のとおり。

道路復旧標準図 S=Free

<影響復旧の場合>



<全面復旧の場合>

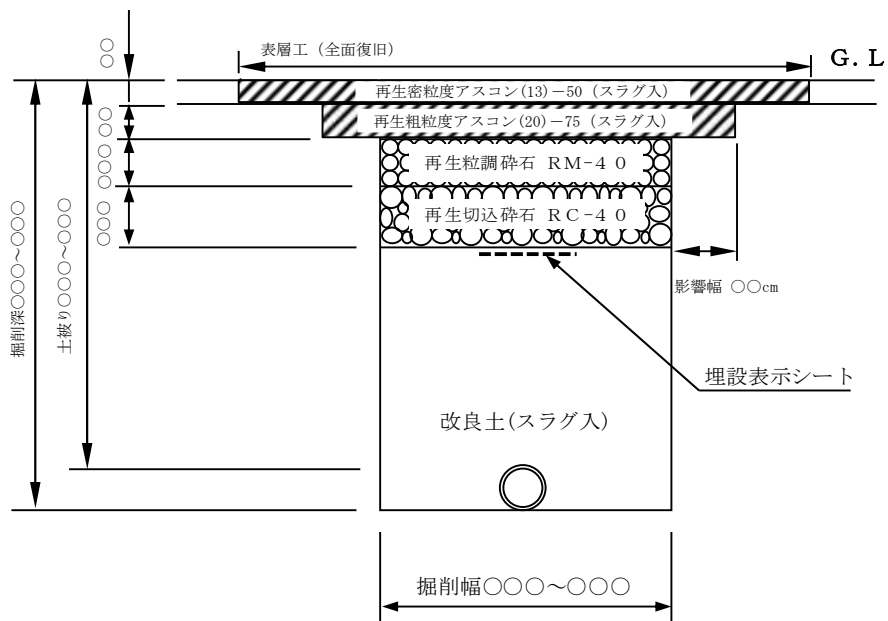


図-5 道路復旧標準図記載例

9 平面図

- (1) 平面図は、縮尺は1/500とする。
- (2) 施工管路については地形、弁類及び地下埋設物は、「補則1 配管材記号等」を用い、すべて記入する。
- (3) 家屋名を明記し、住所等については起点・終点その他必要に応じて記入する。
- (4) 新設管路については、太い実線、既設管路は細い実線で記入し弁栓類を「補則1 配管材記号等」により記入する。
- (5) 弁栓類については、新設管路・既設管路を問わず、室施工を行ったすべてに室名を記入する。
また、境界杭・プレートの復旧箇所は記入する。
- (6) 布設延長の数量については、口径、管種、地区画別等で記入し、直管延長（直管＋切管）、異形管延長（総延長－（直管＋切管））を記入する。
※ ここでの総延長は、管芯長で算出されたものである。
- (7) 弁栓類の設置においては、10桁の管理番号を記入し、バタフライ弁を設置した場合は、回転数、形式、メーカー名も併せて記入する。
- (8) 平面図は、配管図の上段に記載することを原則とする。
- (9) 水管橋・橋梁添架で河川・水路を横断する場合は、流水方向を明記する。
- (10) 平面図の記載例は「図-6 平面図記載例」のとおり。

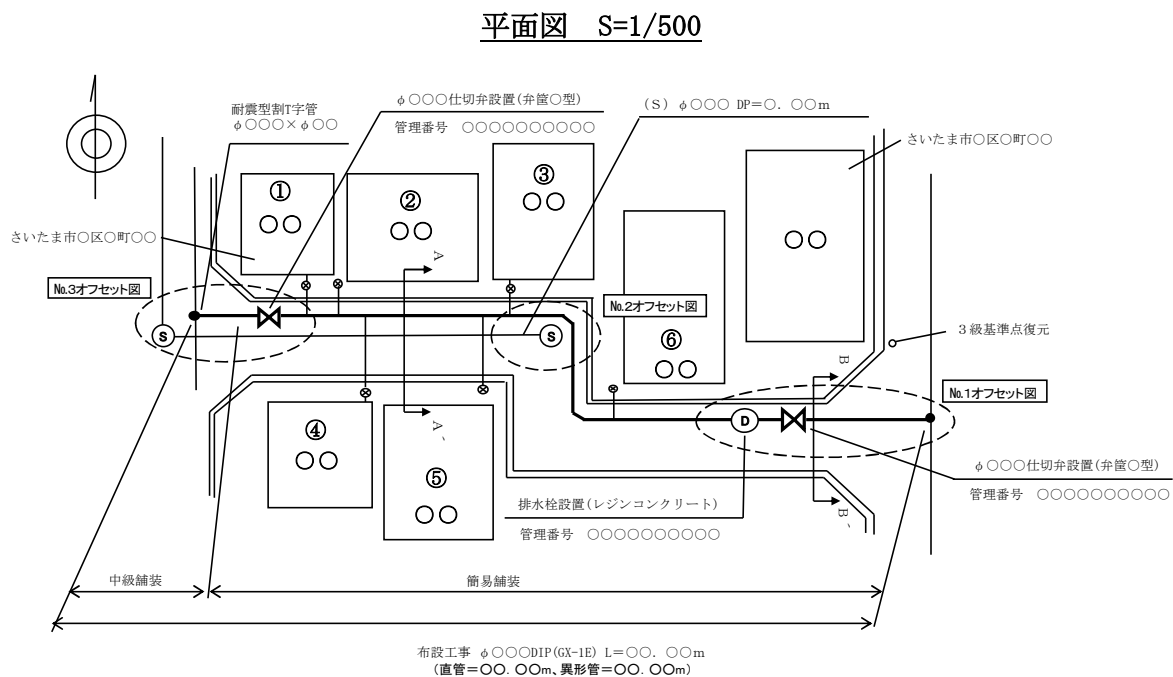


図-6 平面図記載例

10 配管図及び配管詳細図

- (1) 縮尺はフリーとする。
- (2) 施工管路すべて記入し、記載位置は平面図の下段を原則とする。
- (3) 異形管、切管、仕切弁、消火栓、空気弁、その他についても「補則1 配管材記号等」を用いすべて記入し、寸法、数量も合わせて記入する。
また、接続する既設管は、破線にて記入。
なお、バタフライ弁を設置した場合は、回転数、形式、メーカー名を記入し、特殊配管材等にはメーカー名を記入する。
- (4) 直管が連続した場合は数量(本)を記入し、直管が重複した場合は中間の継手記号を省略してもよい。
なお、配水小管(φ50、SSPまたはCSST)については、管種、口径、延長も記入する。
- (5) 異形管を使ってマンホール、電柱等を避ける場合は図面にその旨を記入する。
- (6) 埋設深度に変化がある場合や仮設排水設備を設置する場合、また必要と思われる箇所には配管詳細図を作成する。
- (7) 配管図は原則として平面図に合わせ記載する。
- (8) 配管図及び配管詳細図の記載例は「図-7 配管図記載例」及び「図-8 配管詳細図記載例」のとおり。

配管図 S=Free

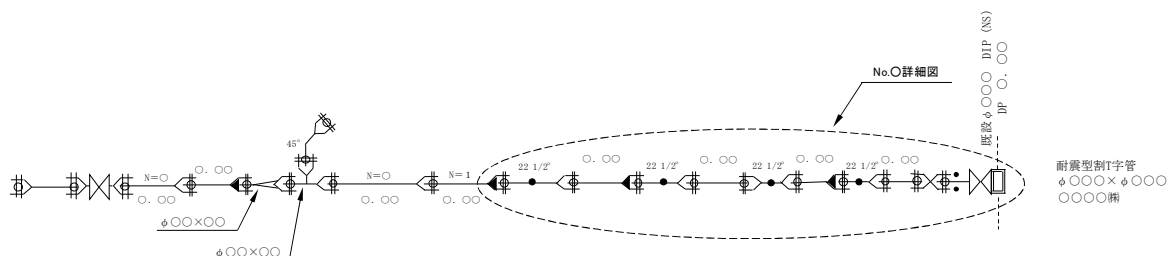


図-7 配管図記載例

No. O 配管詳細図 S=Free

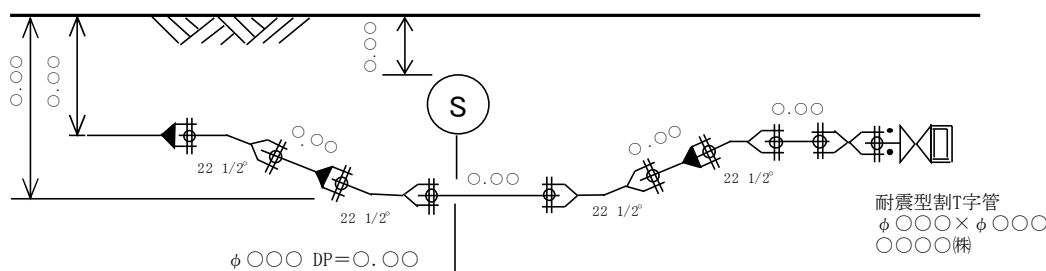


図-8 配管詳細図記載例

1 1 断面図

- (1) 縮尺は、1/100 を原則とする。
- (2) 断面図の間隔、位置は試掘調査及び工事記録写真を参考に 50m を標準とするが変化点がある場合はこの限りではない。
- (3) 布設管の埋設位置、側溝、塀及び家屋名等も記入する。
- (4) 布設管以外の埋設物位置、口径、占用者名等も記入する。
- (5) 水管橋・橋梁添架で河川・水路を横断する場合は、HWL（ハイウォーターレベル）を明記する。
- (6) 断面図の記載例は「図-9 断面図記載例」のとおり。

断面図 S=1/100

A - A'

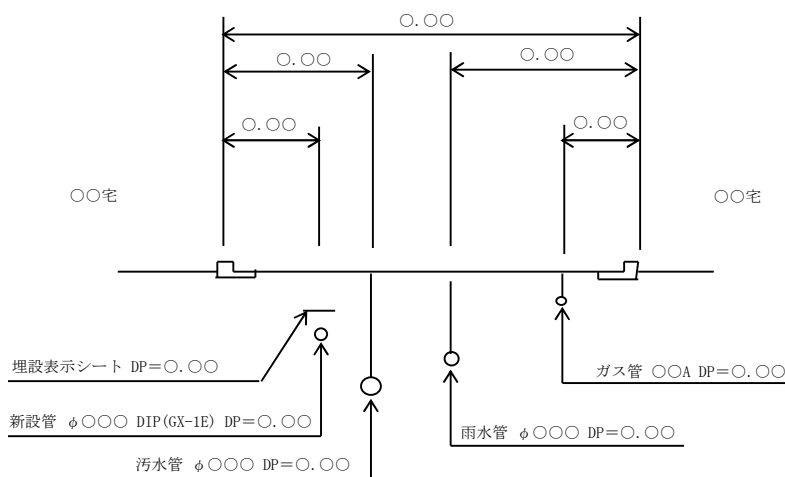


図-9 断面図記載例

1 2 縦断面図

- (1) 縮尺は、水平方向（横）は1/500、垂直方向（縦）は1/100を原則とする。
- (2) 設計図で縦断面図を備えている場合はすべて竣工図でも記載する。
- (3) (2)以外も監督職員の指示により、記載を必要とする場合もある。
- (4) 縦断面図は、地盤高・管芯高・土被・追加距離・単距離・測点・埋設物の状況・分岐管・消火栓・曲管・仕切弁・その他記載を必要とするものすべて記入する。
- (5) 縦断面図の配置は、平面図の最下段に記載する。
- (6) 縦断面図の記載例は、「図-10 縦断面図記載例」のとおり。

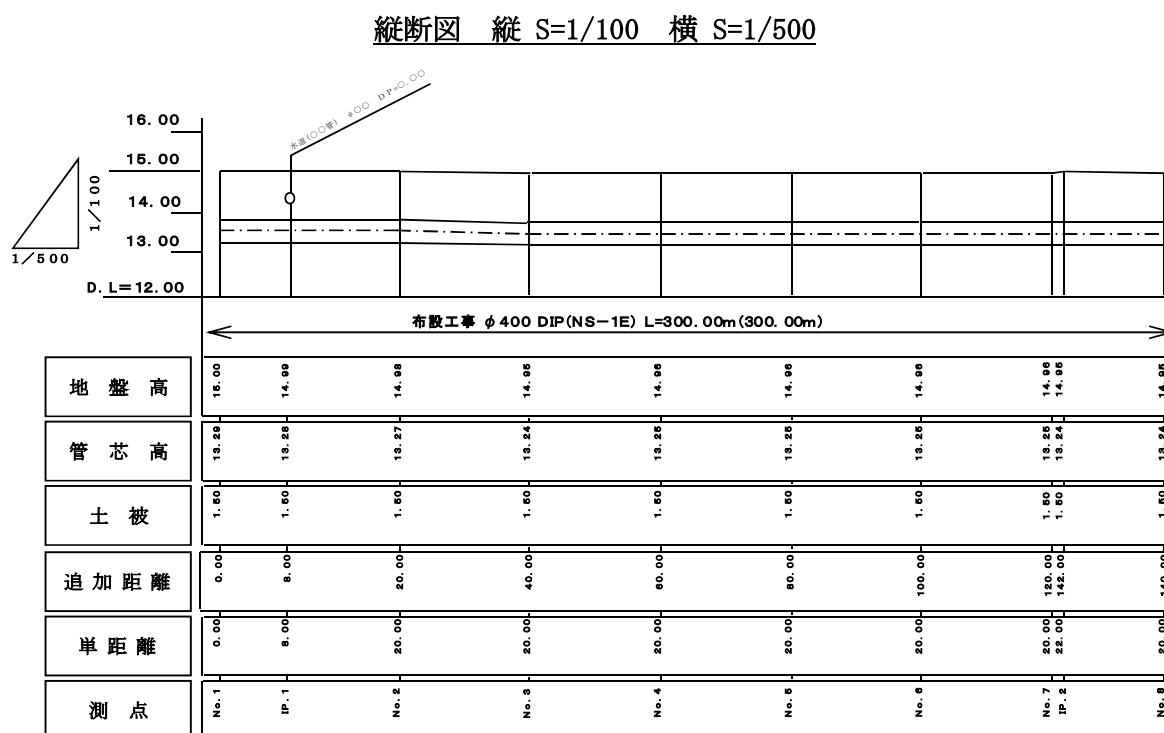


図-10 縦断面図記載例

1 3 オフセット図

- (1) 縮尺は、1/100 を原則とする。
- (2) オフセットをとる場合は、弁栓類、分岐点、工事起点、工事終点、その他必要とする個所とし、引照点は原則3か所とする。
- (3) 引照点となるものは、永久構造物(境界プレート、石杭、地先境界の角等)を原則とし、引照点の名称を記入する。
- (4) オフセット図上の番号と平面図上の番号は、同一番号とする。
- (5) 45° 以上の曲管が連続する場合は、1か所以上記入する。
- (6) 乙字管 (GX) がある場合は、必ず記入する。なお、乙字管は部材内に変化点が2つあるため、配管の受口部 (有効長の起点) 等に対しオフセット対象部が判別できるように記入する。
- (7) 耐震形特殊T字管については、分岐フランジの設置状況が判別できるように記入する。
- (8) 支栓閉栓、割T字管の栓止がある場合は、必ず記入する。
- (9) 回避した障害物名称を記入する。
- (10) オフセット図の記載例は「図-11 オフセット図記載例」のとおり。

No. ○ オフセット図 S=1/100

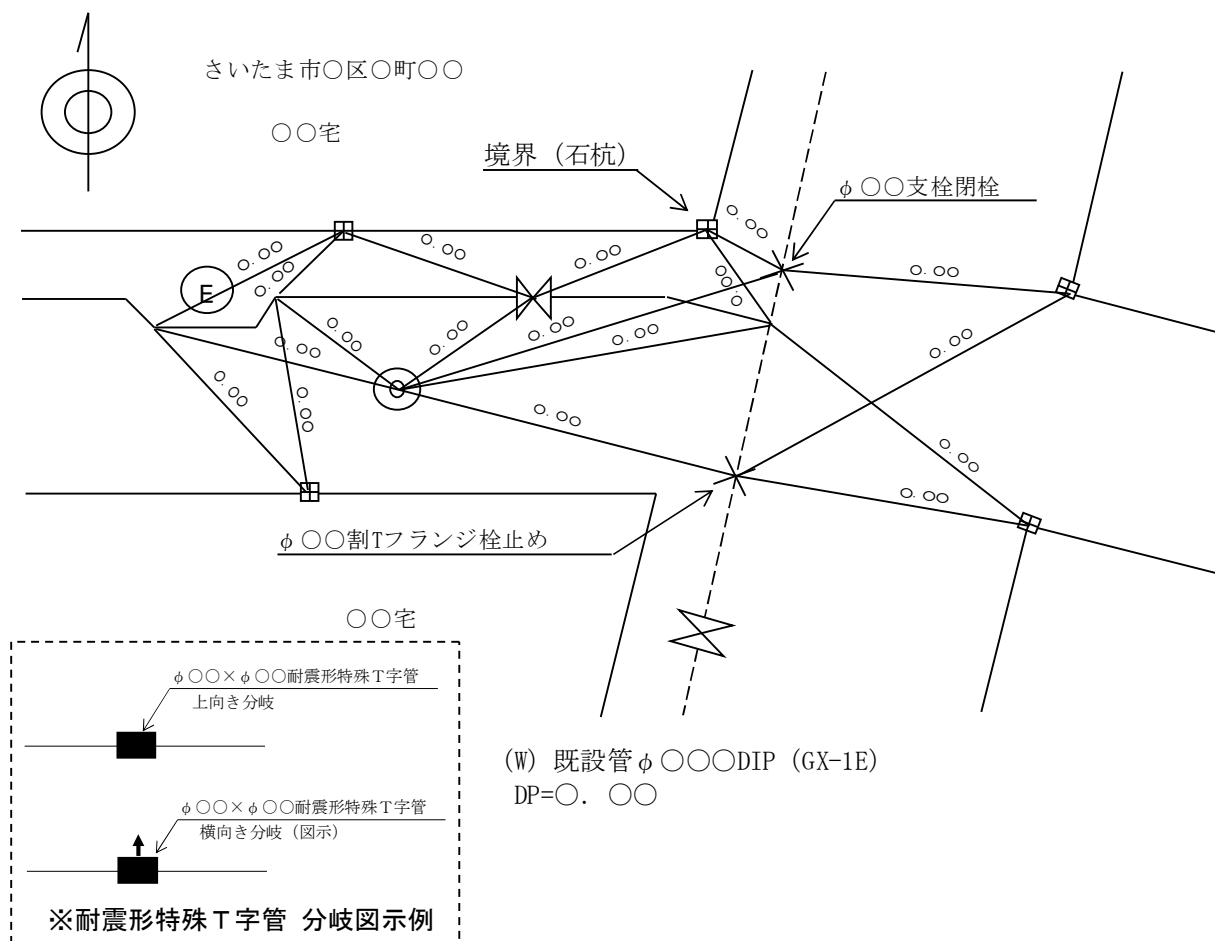


図-11 オフセット図記載例

1 4 給水図

- (1) 縮尺は、1/500 を原則とする。
- (2) 平面図を作成し、N0、水道番号、家屋名を表記し、取出口径を記入する。
- (3) 取付位置を太線で記入し、取付替位置がわかるようにする。
- (4) 水道番号・取出口径等を一覧表により表示する。
- (5) 取出箇所オフセットの寸法を記入する。
- (6) メーター移設・支栓閉栓・割T字管閉栓箇所を表示する。
- (7) 連合栓の場合は、取付替件数1件が複数戸数となる場合がある。
- (8) 給水図の記載例と給水管取付替一覧表の記入例は、「図-12 給水図記載例」、「表-3 給水管取付替一覧表記入例」のとおり。

給水図 S=1/500

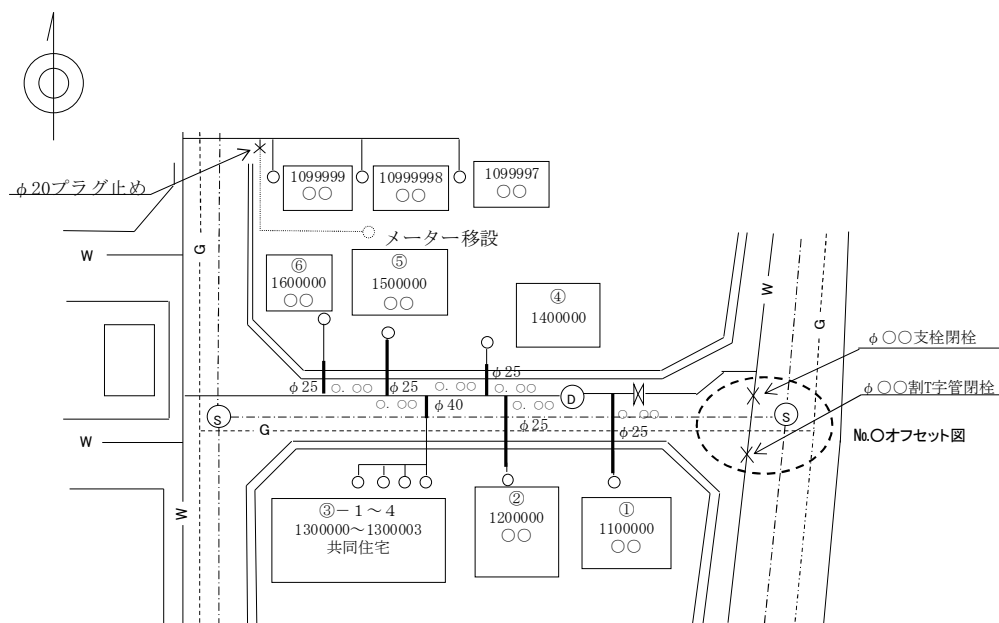


図-12 給水図記載例

表-3 給水管取付替一覧表記入例

給水管取付替一覧表

番号	水道番号	取出口径	管種	接続位置	道路内延長(m) ※5	宅地内延長(m) ※5	接続管種 (一次側) ※5	メーター廻り				対象戸数 (戸)	水道番号 (連合給水管)	備考
								メーター口径	一次側フレキシ (手動式バルブ含む)	二次側フレキシ	メーターBOX			
①	1100000	φ150×φ25	CSST	宅地内	3.00	0.00	※1 メーター	φ20	○	○	○	1		二次側接続管種: PP
②	1200000	φ150×φ25	CSST	宅地内	3.00	0.30	※2 メーター	φ20	○			1		
③-1	1300000	φ150×φ40	SFP	道路内	1.00	—	※3 SSP	—				4	1300001~1300003	
④	1400000	φ150×φ25	CSST	宅地内	0.80	0.10	※4 SFP	—				1		
⑤	1500000	φ150×φ25	CSST	宅地内	1.00	2.30	※1 メーター	φ20	○	○	○	1		・支分プラグ止め ・メーター移設 ・二次側接続管種: PP
⑥	1600000	φ150×φ25	CSST	宅地内	0.80	0.10	CSST	—				1		

取付替件数 6件

対象戸数 9戸

- ※1 二次側に接続の場合、二次側の接続管種は備考欄に記載
- ※2 メーターに接続の場合
- ※3 既設がSSPで取付が分水フレキシ接続の場合
- ※4 メーター側の一次側フレキシに接続の場合
- ※5 道路内・宅地内延長は、メーター廻り一次側フレキシを除く平面長で記載

1 5 撤去・埋置き廃止管図

- (1) 縮尺は、1/500 を原則とする。
- (2) 平面図を作成し、家屋名を表記し、既設管（本管・給水管）の撤去・埋置き廃止管を記入する。
 なお、既設管（本管）については、工事番号を記入する。
 また、撤去・埋置き廃止管は、口径、管種、延長を記入する。
- (3) 埋置き廃止管（本管）については、断面図（11 断面図に準ずる）を作成する。
- (4) 閉栓箇所（本管・給水管・仮給水管取出部）、埋置き廃止管（本管）の起点及び終点位置の各オフセット（13 オフセット図に準ずる）を作成する。
 また、撤去、埋置きに係わらず、撤去・埋置き廃止管の数量を表に総括する。
- (5) 仮設材等を残置した場合は、端部や折点の各オフセット（13 オフセット図に準ずる）を作成する。
- (6) 撤去・埋置き廃止管図及び埋置き廃止管断面図の記載例、撤去・埋置き廃止管数量表及び支栓閉栓数量表の記入例は、「図-13 撤去・埋置き廃止管図記載例」、「図-14 埋置き廃止管図断面図」、「表-4 撤去・埋置き廃止管数量表記入例」、「表-5 支栓閉栓数量表記入例」のとおり。
- (7) 既設管（本管）を鞘管として利用する場合は、埋置き廃止管として記載する。

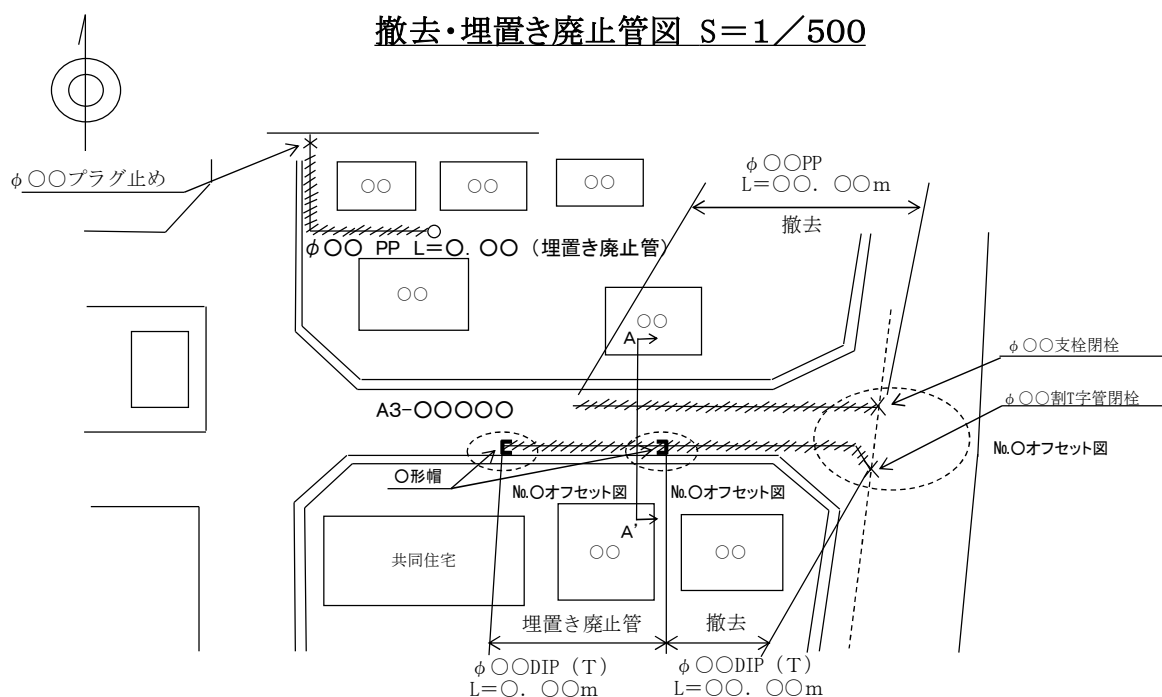


図-13 撤去・埋置き廃止管図記載例

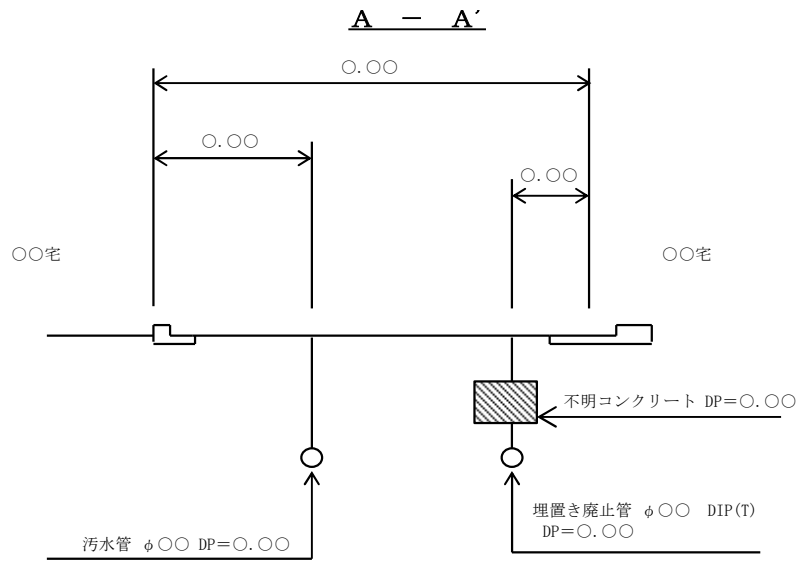


図-14 埋置き廃止管断面図記載例

表-4 撤去・埋置き廃止管数量表記入例

撤去・埋置き廃止管数量表

種別	口径	管種	延長(m)	仕切弁(台)	排水弁(台)	排水栓(基)	消火栓(基)	空気弁(基)	可撓管(基)	不断水式仕切弁(台)	備考
配水支管	φ〇〇	DIP(T)									撤去
	φ〇〇	DIP(T)									埋置き廃止管(モルタル充填)
	計										
給水管	φ〇〇	PP									撤去
	φ〇〇	PP									埋置き廃止管
	計										

表-5 支栓閉栓数量表記入例

支栓閉栓数量表

口径	栓数	備考
φ〇〇	〇栓	割T字管フランジ栓止め
φ〇〇	〇栓	キャップ止め
φ〇〇	〇栓	プラグ止め

1 6 沈下棒を設置した工事の竣工図

(1) 沈下棒の設置状況がわかるように施工管路図とは別に図面を作成する。

また、表題欄の工事名は、維持管理課に確認し、「沈下棒設置（その〇〇）工事」と記載する。

なお、図面は、「案内図、平面図、沈下棒設置標準図、仮 BM 位置詳細図、沈下棒概要表」で構成する。

(2) 案内図と平面図は、「6 案内図」、「9 平面図」に準じて作成する。

また、仮 BM 位置詳細図と沈下棒設置標準図の縮尺はフリーとし、各部記載例は、「図-15 仮 BM 位置詳細図例」、「図-16 沈下棒設置標準図例」のとおり。

(3) 沈下棒概要表の記入例は、「表-6 沈下棒概要表様式の基本表」の「沈下測定装置表」「可とう管性能表」「可とう管規格表」が基本となり、各表記入例のように当該事項を記入する。

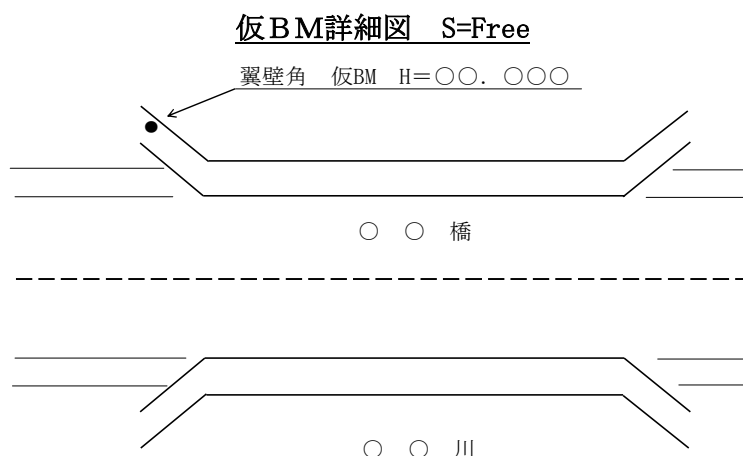


図-15 仮BM位置詳細図例

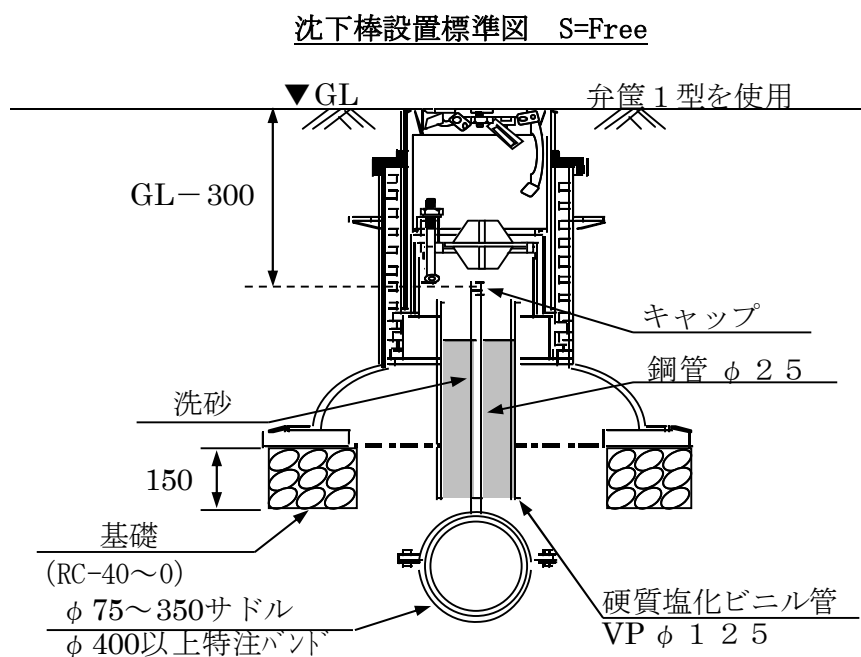


図-16 沈下棒設置標準図例

表-6 沈下棒概要表様式の基本表
(沈下測定装置表記入例)

沈下測定装置表

可とう管番号	仮BM (m)	沈下測定装置番号	測定値 (m)
No. 1	10.394	No. 1	9.917
No. 2	10.394	No. 1	8.632

(可とう管性能表記入例)

可とう管性能表

可とう管種別	可とう管番号	口径 (mm)	管面長 (mm)	偏心量 (mm)
ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管	No. 1	φ 500	1,970	200
	No. 2	φ 500	1,970	200

(可とう管規格表記入例)

可とう管規格表

可とう管番号	No. 1、No. 2
可とう管種類	NS型ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管
口径 (mm)	φ 500
偏心量 (mm)	200
形 式	ダブル型 NS形受口+NS形挿し口
メーカー名	〇〇〇〇株式会社

1.7 新設消火栓単独工事の竣工図

- (1) 図面は、「案内図、道路復旧標準図、平面図、配管図、断面図、消火栓構造図、オフセット図、市内消火栓設置工事数量表」で構成し、「補則 2 竣工図の配置箇所」を標準例とし設置箇所毎に作成する。
- (2) 案内図、平面図、配管図、断面図、道路復旧標準図、オフセット図は、「6 案内図」、「8 道路復旧標準図」、「9 平面図」、「10 配管図及び配管詳細図」、「11 断面図」、「13 オフセット図」に準じて作成する。
また、消火栓構造図の縮尺はフリーとし、記載例は、「図-17 消火栓構造図例」のとおり。
- (3) 市内消火栓設置工事数量表の記入例は、「表-7 市内消火栓設置工事数量表記入例」とし、当該事項を記入する。

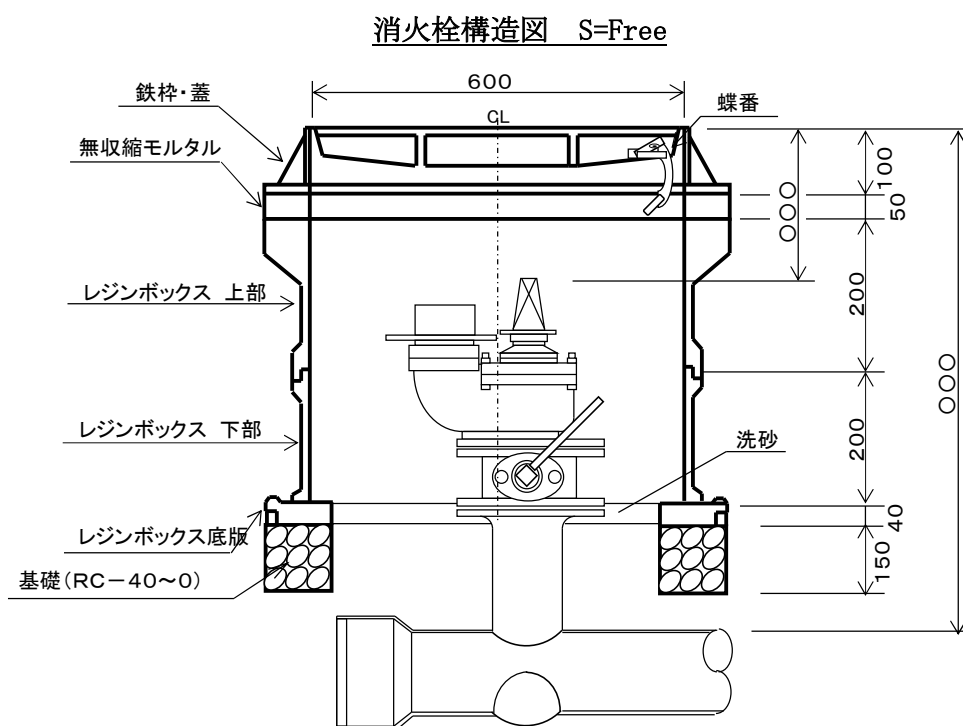


図-17 消火栓構造図例

表-7 市内消火栓設置工事数量表記入例

市内消火栓設置工事数量表

種 別	口径・管種	単口地下式消火栓
消火栓設置工事	DIP(NS) φ 300 × φ 75	1 基

1 8 竣工図面の種類と提出部数

当該工事の竣工後に「表-8 竣工図面の種類と提出部数一覧表」の竣工図面を直ちに作成し監督職員に提出する（竣工図を PDF ファイルで作成し、トレーシングペーパーでの原図提出を省略する場合は、「19 電子成果品による図面の作成及び提出」を参照）。ただし、提出部数については、監督職員の指示により変更する場合もある。

表-8 竣工図面の種類と提出部数一覧表

種 別	規 格	提出部数	折畳規格	備 考
竣工図原図	A1 版	1 部	—	原図は丸めて提出
竣工図製本	A1 版	1 冊	A4 版	
竣工図折畳版	A1 版	1 部	A4 版	

1 9 電子成果品による図面の作成及び提出

- (1) 「さいたま市電子納品要領【簡易普及版】」に基づき完成図を作成した場合は、竣工図を構成する完成図の PDF ファイルを CD-R に格納して提出することにより、竣工図（電子成果品）を竣工図原図とし、トレーシングペーパーでの原図提出を省略できる。
- (2) 受注者は、前号の取扱いにより竣工図を提出しようとする場合は、予定する図面枚数を報告するとともに監督職員と事前協議を行い、電子成果品による図面の提出について承認を得なければならない。
- (3) 受注者は、(1) の取扱いにより竣工図を提出する場合は、当該工事の竣工後に「表-9 竣工図面の種類と提出部数一覧表（電子成果品対応）」の竣工図面を直ちに作成し監督職員に提出する。ただし、提出部数については、監督職員の指示により変更する場合もある。

表-9 竣工図面の種類と提出部数一覧表（電子成果品対応）

種 別	規 格	提出部数	折畳規格	備 考
竣工図折畳版	A1 版	1 部	A4 版	
竣工図原図 （電子成果品）	A1 版(PDF)	2 枚 (CD)※		PDF ファイルは 1 枚(1 図面)につき 1 ファイルで作成し、工事名称に対応するフォルダ内に格納すること。 なお、ファイル名は、NNN 図面名称.PDF とする（NNN は半角の 001～999 を設定し、竣工図での図番を設定する。）。

※ 「竣工図原図（電子成果品）」の内容を含めた電子納品を別途提出している場合は、「竣工図原図（電子成果品）」の提出は1枚とできる。

20 製本作成

- (1) 製本は、白または黒表紙とする。
- (2) 製本は、「図-18 製本例」の様式で製本する。
- (3) 製本に厚みが出る場合、背中の文字列は上方から、年度・工事名・工事場所・竣工年月日・施工者を記載する。
また、竣工年月日については、竣工検査合格日とする。
- (4) 製本に添付する図面類は表紙の規格（A4版）と同サイズに標題欄が見えるように折り畳んで、製本を作成する。

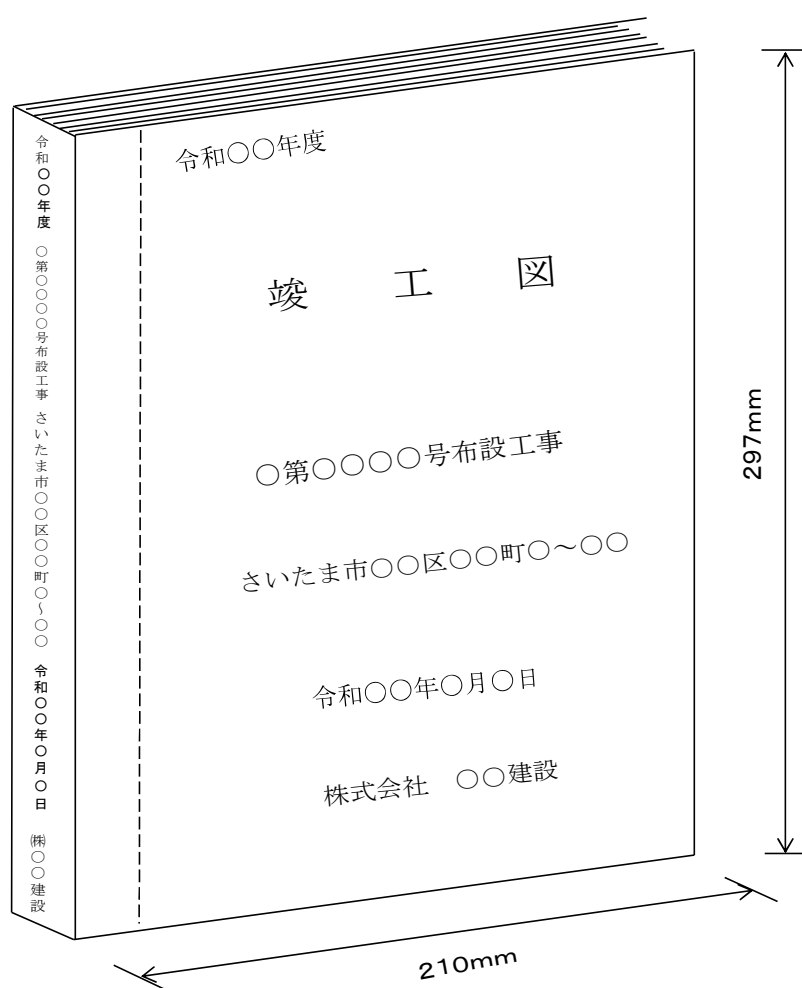


図-18 製本例

21 竣工図及び製本の提出時期

- (1) 受注者は、工事が完成したら直ちに竣工図原図を作成し、完成日から10日以内に監督職員に提出し承認を得なければならない。
- (2) 受注者は、竣工図原図の承認を得てから検査後、「18 竣工図面の種類と提出部数」または「19 電子成果品による図面の作成及び提出」による竣工図面を必要部数提出しなければならない。

補則 1 配管材記号等

竣工図に表示する配管記号、管種別略称及びその他の各種記号は次のとおりとする。

1 管種別略称

管種	略称	管種	略称	
ダ ク タ イ ル 鑄 鉄 管	A形	D I P (A)	メカニカル鑄鉄管 (無ライニング)	M C P
	K形	D I P (K-1)	いんろう形鑄鉄管	C I P
		D I P (K-3)	鋼管	S P
	T形	D I P (T)	石綿セメント管	A C P
	K F形	D I P (K F)	耐衝撃性硬質塩化ビニール管	H I V P
	U形	D I P (U)	ビニールライニング鋼管	S G P - V
	U F形	D I P (U F)	水道用ステンレス鋼管 JWWA G115	S S P
	S形	D I P (S)	水道用波状ステンレス鋼管 JWWA G119	C S S T
	S II形	D I P (S II)	ステンレスフレキシブルチューブユニット	S F P
	N S形	D I P (N S-1)	鉛管	L P
		D I P (N S-S)	ポリエチレン管	P P
		D I P (N S-1 E)	—	—
		D I P (N S-S E)	—	—
G X形	D I P (G X-1 E)	—	—	

2 他企業工作物等

水道管	—— (W) ——	ガスピット	—— (G) ——
工業用水	—— (I W) ——	電気ケーブル	—— (E) ——
下水道管	—— (S) ——	電気人孔	—— (E) ——
下水道人孔	—— (S) ——	電話ケーブル	—— (T) ——
ガス管	—— (G) ——	電話人孔	—— (T) ——

3 平面図用弁栓類記号一覧表

平面図用弁栓類記号			
仕切弁	✕	空気弁	(A)
不断水仕切弁	⊗	排水栓	(D)
		空気弁付排水栓	(AD)
排水弁	✕	消火栓	(H)
排水口	⊕	耐震形特殊T字管	■

4 配管材記号等一覧表

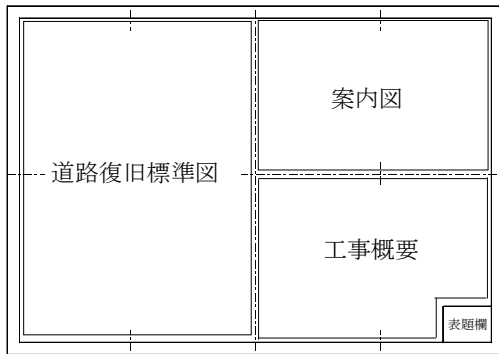
配管材記号			
管材料	G X形	N S形	K形
直管			
曲管 (平面)			
両受曲管 (平面)			
曲管 (立面)			
両受曲管 (立面)			
乙字管 (平面)			
乙字管 (立面)			
二受T字管			
三受十字管			
フランジ付T字管			
渦巻き式フランジ付T字管			
受挿し片落管			
挿し受片落管			
短管 1号			
短管 2号			
両受短管			
継輪 (普通押輪付)			
継輪 (特殊押輪付)			
仕切弁 (受挿し)			
仕切弁 (両受)			
フランジ面の表記は右記のとおり	RF型 GF型		
K形特殊押し輪の表記は右記のとおり			
NS形継手 (ライナー)の表記は右記のとおり			
GX形継手 (ライナー)の表記は右記のとおり			

配 管 材 記 号			
材料等	記号	各部の配管パターン (例)	
消火栓		消火栓 (浅埋用)	
空気弁			
双口空気弁		排水栓 (浅埋用)	
排水栓 (空気弁付排水栓含む)			
排水口		空気弁付排水栓	
補修弁付フランジ短管			
両フランジ短管		空気弁 (浅埋用)	
フランジ仕切弁			
不断水式割T字管		消火栓 排水栓 空気弁 (本管理設位置 が深い場合)	
不断水式割T字管 バルブ付			
耐震型割T字管 (特殊短管)		不断水式割T字管 バルブ付	
耐震型割T字管 (特殊ベンド)(平面)			
耐震型割T字管 (特殊ベンド)(立面)			
栓		耐震型割T字管 (特殊短管) 〔直管接続〕	
フランジ栓		耐震型割T字管 (特殊ベンド)(平面) 〔曲管接続〕	
メカ帽	K形 NS形	耐震型割T字管 (特殊ベンド)(立面) 〔曲管接続〕	
帽	NS形 GX形	フランジ栓 (割T字管部)	
異種管継手 (各ジョイント共通)		伸縮可とう管 〔事例：NS〕	
異種管継手片落管 (各ジョイント共通)			
耐震形特殊T字管		伸縮可とう管 (沈下棒付) 〔事例：NS〕	
片フランジ曲管			

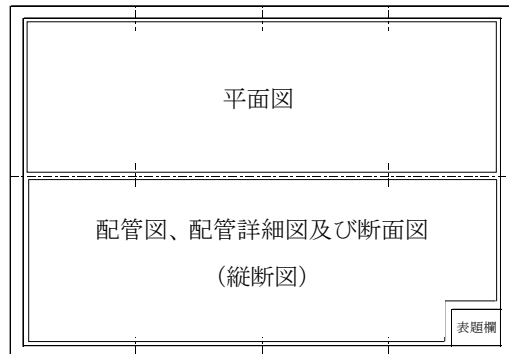
補則2 竣工図の配置箇所

1 配水本管工事、配水支管工事及び布設替工事

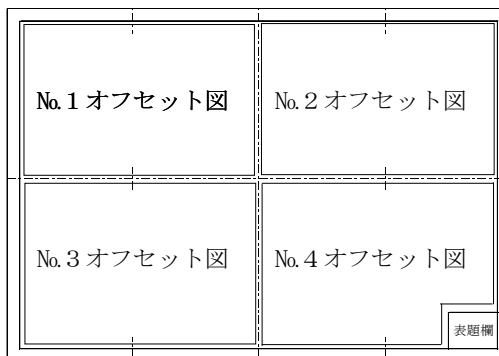
配水本管工事、配水支管工事及び布設替工事の図面の配置は、「図番 1/5、図番 2/5、図番 3/5、図番 4/5、図番 5/5」のとおり。



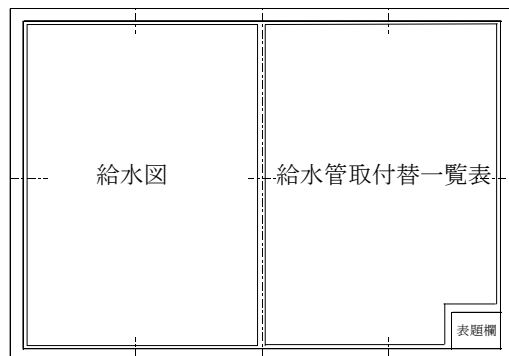
図番 1/5



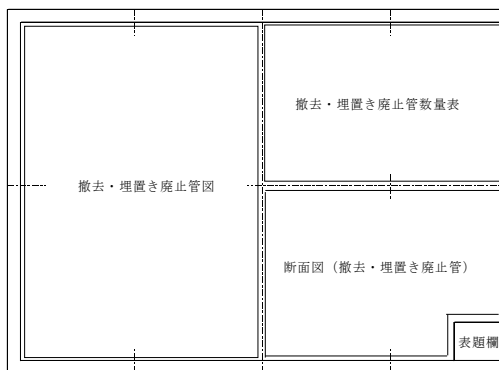
図番 2/5



図番 3/5



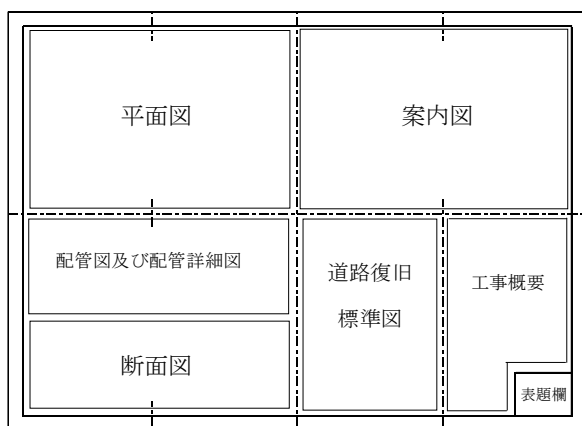
図番 4/5



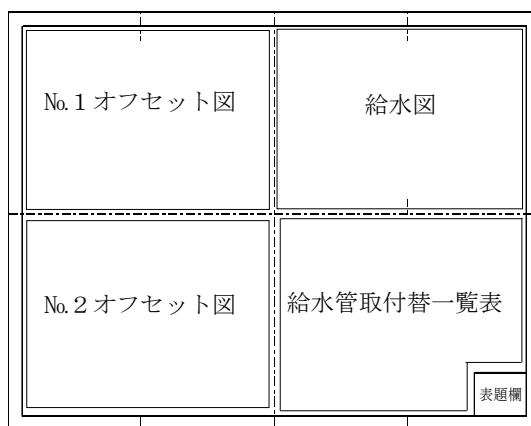
図番 5/5

2 配水小管工事

配水小管工事の図面の配置は、「図番 1/2、図番 2/2」のとおり。



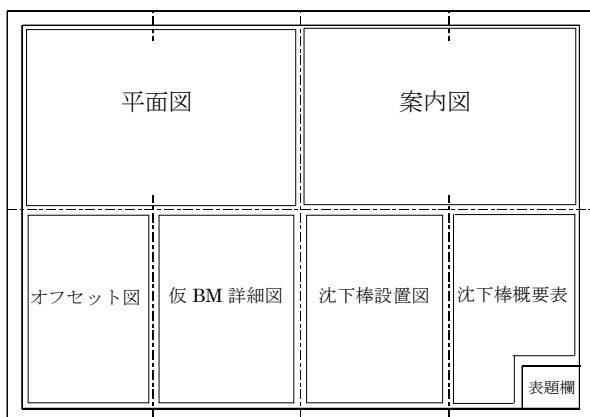
図番 1/2



図番 2/2

3 沈下棒を設置した工事

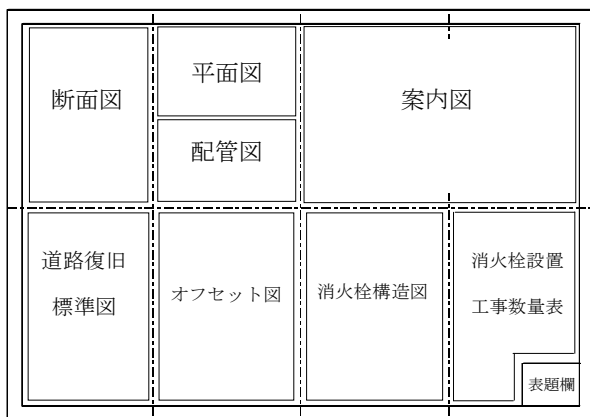
沈下棒を設置した工事の図面の配置は、「図番 1/1」のとおり。



図番 1/1

4 新設消火栓単独工事

新設消火栓単独工事の図面の配置は、「図番 1/1」のとおり。



図番 1/1

